

## 急性期・24時間救急～慢性期医療まで幅広く診療 信頼され満足いただける中核病院として地域に貢献

### 那覇市<sup>あめく</sup>天久新都心の高台に立地

那覇港を眼下に、西に慶良間諸島を、東に那覇市街地を一望できる天久新都心の高台に建つ当院は、那覇空港から国道58号線沿いに車で約20分、国際通りへも徒歩圏内の好立地です(写真1、2)。

### 病 院 の 概 要

2020年10月現在

**病棟構成とベッド数:** ICU (集中治療室6床)、急性期一般4病棟 (38床×1、44床×3)、回復期リハビリ病棟 (41床)、ドック3床計6病棟214床

**リハビリ施設基準等:** 回復期リハビリ病棟入院科1、脳血管疾患等リハビリ (I)、運動器リハビリ (I)、呼吸器リハビリ (I)、心大血管リハビリ (I)、廃用リハビリ (I)

**標榜科目:** 内科 (循環器、呼吸器、消化器、胃腸、糖尿病、腎臓、内分泌、脳神経)、外科 (消化器、呼吸器、乳腺、心臓血管、大腸・肛門、血管)、整形外科、脳神経外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、婦人科眼科、救急科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、リウマチ科、病理診断科、人工透析内科、ペインクリニック内科・外科、歯科小児歯科、歯科口腔外科、眼形成眼窩外科、スポーツ外来、漢方外来、禁煙外来、睡眠時無呼吸外来、総合健康管理センター、救急センター、心臓血管センター、内視鏡センター、糖尿病センター、透析センター、画像センター、女性腹腔鏡センター、日帰り手術センター、CVポートセンター

**職員数:** 医師75名 (研修医含む)、看護師315名 (准看護師含む) 療法士104名 (PT 54名、OT 37名、ST 13名)、薬剤師11名 臨床検査技師21名、放射線技師13名、臨床工学士13名、介護福祉士15名、管理栄養士8名、調理師9名、社会福祉士6名、歯科衛生士4名、看護補助43名、事務65名

**カンファレンス・ミーティングの種類:** P37表参照

**関連施設:** 大浜第二病院 (177床うち回復期リハビリ病棟60床) クリニック安里、介護老人保健施設はまゆう、老人保健施設さのわんおもと園、特別養護老人ホームおもと園、特別養護老人ホームすみれ、デイケアセンターあめくの杜、在宅総合ケアセンターなは (居宅介護支援、訪問看護、ホームヘルプサービス、訪問入浴サービス、配食サービス、那覇市地域包括支援センター安里)、地域包括支援センターかみはら (サービス付き高齢者住宅、居宅介護支援デイサービス、ホームヘルプサービス、訪問看護、グループホーム小規模多機能ホーム)、在宅総合ケアセンターおもととよみの杜 (居宅介護支援、デイサービス、ホームヘルプサービス、訪問看護 豊見城市在宅介護支援センター)、在宅総合ケアセンター古島 (居宅介護支援、ホームヘルプサービス)、ケア・クロッシング寄宮 (小規模多機能ホーム、福祉用具レンタル事業、研修センターCC寄宮、NO LIFT®LABO、LOUNGE O)、パワーリハビリおもととデイサービスセンター上原、ケアハウスひまわり、沖縄看護専門学校、沖縄リハビリテーション福祉学院、おもと会教育研修センター



写真1、2 病院外観。那覇市中心部、天久新都心の高台にあり(下 手前中央)、向こう一面に那覇港が広がる

### 救急患者の24時間受け入れ体制を整備

「患者様第一主義に徹した医療サービス」「地域社会に信頼される病院」「地域の急性期医療ニーズに積極的に対応」を基本理念に、高度急性期1病棟、急性期4病棟、回復期リハビリ1病棟計214床で急性期から回復期、慢性期の医療、健診、在宅医療まで幅広く診療を行っています。



写真3、4 (上、右)

3階まで吹き抜けの1階ふれあいホール。入院・外来患者様のご家族とふれあう場として、講演会やコンサートなどのイベントの場として利用



(左から) 写真5 一般外来受付 写真6 総合案内。車いすの方でもスムーズに通行できるスペースを確保

近年は救急医療に力を注ぎ、救急患者様を24時間受け入れ可能なER型救急体制を整備。軽症から一刻を争う重症まで多くの救急疾患に広く門戸を開いています。複数疾患を抱えた高齢者の急患症例など単独の専門科で対処が困難な場合は入院措置をとり、疾病特性の優先順位を勘案し複数の専門医と連携して治療にあたっています。

## 12階建ての医療・保健・福祉複合型施設

建物は1～3階と6～10階が当院、4・5階が特養、11・12階が健診やメディカルフィットネスなどの総合健康管理センターで、医療・保健・福祉の複合型施設になっています。1・2階は主に外来患者



写真7 1階の日本式庭園。一般開放され誰でも自由に散策できる

様向けのゾーン(写真3、4、5、6)で訪問リハビリセンター、デイケアセンターが開設されています。

1階屋外には広大な日本式庭園(写真7)があり、



写真8 庭園はリハビリの場としても活用されている



写真9 10階の回復期リハビリ病棟入口

一般開放され自由に散策できます。入院患者様には屋外歩行訓練等のリハビリ(写真8)、ご家族との寛ぎの場、地域住民の憩いの場となっています。

2階には教育研修用のスペースがあり、近隣のかかりつけ医、他施設の医療・介護関係者との連携強化に活用しています。3階は透析センターがあり夜間透析も行っているほか手術室が5室あり、全診療科に対応しています。4・5階の特養は定員80名で全室個室で入所者の方々の生活リズムを大切にケアを提供しています。6階にはICU6床を設置、内科、外科系を問わず呼吸・循環・代謝ほか重篤な急性機能不全患者様に対する集中的治療を実施しています。

### 各階にリハビリ室、全病室個室

6~9階の4フロアは急性期~亜急性期の病棟で、



写真10 10階病棟。廊下は幅2,25m、長さ120m



写真11 各階リハビリ室は手狭な分、顔がよく見える



写真12 リハビリ室(ADL室)

各階にリハビリテーション室があります。10階が回復期リハビリ病棟(写真9、10)で、早期の自宅退院を目指しています。各階にリハビリ室を設けたことで(写真11、12)、移動の安全性確保、



写真13 有償個室



写真14 ドック宿泊室(12階)



写真15 病院最上階から眺望する那覇港

職員の負担軽減につながっています。

HCUを除く全病室は個室です。全室にトイレと洗面台、有償個室(写真13)はシャワーユニット、特別個室はさらにキッチンが装備されています。11階は総合健康管理センター、12階はドック宿泊施設(写真14)、外来心臓リハビリ室などです。最上階からの眺望(写真15)を楽しみながら治



写真16 教育研修シミュレーションセンター(2階)の取り組み例。AEDの使い方を実習

療や健診を受けられるのも魅力です。

214床の中規模病院ながら教育研修システムをいち早く導入し、若い医師や他施設から移籍する医師への教育指導体制が整っています(写真16)。メンタルサポート施設「こころと体のヘルスケアセンター」もあり、専門医による相談やケア、カウンセリングも受けられ安心して働ける環境です。

### 発症2日以内に急性期リハビリを開始

運動器疾患、心大血管疾患、脳血管疾患、呼吸器疾患、廃用性症候群の方々に対し、発症日から2日以内に急性期リハビリを開始できるよう心がけています。がんのリハビリにも対応できるよう準備を進めています。

### 回復期リハビリ～全床個室の利点活かす

当院回復期リハビリ病棟の入院患者割合は脳血管疾患47.7%、運動器疾患52.3%で、急性発症・受傷日から入棟までの平均日数は20.0日、重症患者比率は36.3%でした(2019年)。

ほぼ全床が個室でトイレと洗面台が設置されているため、ベッド位置や向きの変更など、個々の在宅生活に合わせた環境設定が比較的容易です。その利点を活かし、入院生活開始時から病室内の環境設定を行いリアルな在宅生活場面が提供でき



(上から) 写真17、18、19  
6～10階の各病棟にある  
見晴らしのよいラウンジ

るよう心がけています。リハビリもリハビリ室だけでなく個々の病室で在宅の環境下に設定して行ったり各階にあるラウンジ(写真17、18、19)を使って行う場面も多いです。機能回復に向けた運動療法と並行して、回復段階に合わせた自室内の伝い歩き練習や各種ADL練習など、イメージする実生活に直結したりハビリを展開しています。

また、福祉機器レンタル会社と連携し、入院中から体形に合った車いすを提供したり褥瘡予防目的でエアマットを導入するなど患者様個々のニーズに合ったサービスを提供しています。退院間近の患者様には病室にベストポジションバーほか退院後、在宅生活で使用予定の福祉機器を実際に設置し、夜間の移動など練習を促しています。

## さまざまなカンファレンス活動を展開

患者様が回復期リハビリ病棟で過ごす入院期間中は、在宅生活の準備期として極めて重要な時期



写真20 階下の急性期病棟に入院中で近々回復期リハビリ病棟に転棟予定の患者様のカンファレンスに回復期リハビリ病棟の療法士が参加。主治医、看護師、療法士、社会福祉士らの説明を聞き患者様の現況を把握、他職種や急性期担当の療法士の視点を学ぶ

です。そこにかかわる療法士が各々の専門性を発揮して多職種と密な情報共有を重ねていけるよう、定例の各種カンファレンス(次頁表)や急性期病棟でのカンファレンスへの参加(写真20)など、参画機会を多くもつようになっています。

当院リハビリ科所属の療法士は総勢104名(写真21)。若い世代が多く活気に溢れていますが経験年数が浅い分、各種カンファレンスへの参画を通じ多くの学びが得られています。取り組み継続により、早期からの多職種を交えたカンファレンスが質の高い内容となり、効果的な多職種協働、急性期～回復期の連携につながっていると感じています。その成果は平均在院日数43.0日、実績指数64.5、在宅復帰率87.0%(2019年度実績)などの数値に表れていると考えています。

## 地域リハビリ—離島支援、セルフカレッジ…

2006年、沖縄県では広域地域リハビリ支援センター事業が終了しましたが、当法人では離島を含むリハビリ専門職不在の地域への地域リハビリ支援を継続していたことから引き続き継続的支援が必要と判断し、独自に「おもと会地域リハビリ支援センター」を設立しました。「障がいのある人・



写真21 リハビリ科所属の療法士は総勢104名

表 当院 カンファレンスの取り組み



写真22  
VF検査



写真23  
Braceカンファレンス

1. 「1stカンファレンス」【転入日当日：リハビリ科医、看護師、療法士、介護職役職者】  
転入患者様の身体機能、ベッド～車いす移乗、自室内移動（歩行／車いす）を含むADLを評価～予後を予測  
転倒リスク、スタッフコール操作能力など生活安全面も重点的に評価し療法士、看護・介護職へ周知  
必要に応じ安全性と快適性確保を目的に個室内の環境調整を完了
  2. 「ファミリーカンファレンス」【転入1か月時～以後月1回：リハビリ科医、看護師、療法士、介護職、社会福祉士】  
脳血管疾患患者様のご家族が対象。事前にリハビリの様子を見て確認したい内容を質問いただくよう依頼。  
当日は担当スタッフがそれぞれ進捗状況、病棟生活の推移、現況を説明。家族から出された希望・要望に沿い  
双方に価値の高い目標を患者様本人が自己決定できるよう協議～当面の方向性を共有
  3. 「嚥下カンファレンス」【必要時～以後2、3週に1回程度：リハビリ科医、言語聴覚士、看護師ほか】  
摂食嚥下機能に課題のある患者様が対象。評価事項を共有～必要に応じVF（写真22）を実施し治療方針を決定  
以後、多職種で定期的な評価の振り返りを行い、食事姿勢、食形態・摂取量・摂取方法などを適宜変更
  4. 「Braceカンファレンス」【必要時：リハビリ科医、理学療法士中心。他職種の参加も推奨】（写真23）  
1人ひとりの患者様に適した装具をタイムリーに作製するため開催。担当療法士は評価内容を書面にまとめ  
動画を使い装具の選定についてプレゼンテーション～リハビリ科医、先輩スタッフが助言
- その他
5. 「転倒・転落予防カンファレンス」【転入後2～4週以内～以後必要時：リハビリ科医、看護師、療法士、介護職】
  6. 「調理カンファレンス」【随時：作業療法士、理学療法士、言語聴覚士】
  7. 「排泄カンファレンス」【随時：リハビリ科医、看護師、療法士、介護職】 など

高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全・快適にその人らしく生活できるように、リハビリの立場から地域住民の介護予防や健康寿命

の延伸に寄与し「地域で住民を支え、そして住民が地域を支える」ことができるよう活動を展開しています。現在は島尻郡の渡嘉敷村・粟国村・久



(左) 写真24  
フェリーで渡嘉敷島  
に入る療法士



(上から) 写真25 島の高齢者向けの認知症予防訓練  
写真26 島の職員に福祉機器の種類・用途を説明  
写真27 島の職員・住民向け講習会(運動と栄養)

米島町の3島に人材を派遣し(写真24)、介護施設職員向け講習会を独自予算で開催しています。テーマは認知症患者への介入方法(写真25)、福祉機器の有効活用(写真26)、運動・栄養の考え方(写真27)、転倒予防、口腔ケアなどです。支援開始当初は島民、施設職員とも受け身でこちらが提案する支援方法を待つだけの姿勢でしたが、少しずつ各島の課題の洗い出しと整理が進められ、私たちリハビリ専門職に積極的に意見や要望を提示したり、人材不足をはじめ地域の課題を補うための解決策を打ち出すようになり、地域リハビリの取り組みが実を結びつつあります。



(上から) 写真28 セルフケアカレッジ「動脈硬化は足にも注意～油断できない足梗塞」(医師)、写真29「体によく簡単に作れる時短レシピ」(管理栄養士)

「セルフケアカレッジ」は、地域住民の健康管理に対する意識を高めることを目的に、当院医師、看護師、コメディカルスタッフが2か月に1回、講話を行うものです(写真28、29)。病気の話や栄養、睡眠の話、身体を動かすプログラムなど。毎回50～60名ほどの参加者で賑わいニーズが高いことから今後は毎月開催していく予定です。

## 回復期病床の大幅増床計画に応えたい

当院が位置する沖縄県南部圏域は、高齢者の増加や県外からの人口流入に伴い、2025年の地域医療構想では全体で17%程度の増床が計画されています。中でも「回復期」病床は664床から1,686床へと大幅な増床計画となっています。

前述のとおり当院の急性期病棟は4病棟で各階にリハビリ室が設置され、急性期リハビリに力を入れている点が大きな特徴です。41床の回復期リハビリ病棟でも常に1日8単位以上のリハビリ提供体制を構築しています。今後も地域で不足するリハビリ医療を担い、安心して質の高いサービス提供の実現に努めます。(下里 綱)